

## 「諸鈍小・中学校の諸鈍シバヤ伝承活動の取組」

### 1 学校名

瀬戸内町立諸鈍小中学校

### 2 学年・人数

小1～中3 9名 (男子児童生徒のみ)

(小1：2名，小4：3名，小5：1名，小6・1名，中2：1名)

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

平成30年10月 総合的な学習の時間 (本校体育館)

保存会の方による指導 (諸鈍公民館)

※今年度は，台風24号の被災により中止。

#### (2) 発表の日時・場所

平成30年10月17日(水) 総合的な学習の時間 (大屯神社)

※今年度は，台風24号の被災により中止。

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

#### (1) 名称

諸鈍シバヤ (しょどんしばや)

#### (2) 由来

約800年の昔，壇ノ浦の戦いに敗れ，源氏の追っ手を逃れてきた，平資盛一行がこの諸鈍に居城を構え，地元の人たちを招き入れて酒宴を催し芸を披露するなどして交流を深めたのが始まりとされている。

#### (3) 構成等

出演者は全員男性のみで構成され，手製のカビディラという紙面と，陣笠風(じんがさふう)の笠をかぶり，囃子(はやし)と三味線(しゃみ)を担当するリ्यूテの伴奏にのって演じる。

かつて20種余りあったという演目は，即興的狂言，人形劇を含めて現在11演目が受け継がれ，主に旧暦9月9日に諸鈍集落の大屯神社で披露されている。

### 5 保存会や地域との連携の具体

学校の教育活動(総合的な学習の時間)の中で伝承活動を位置付けている。授業時数の削減と指導者の都合で，公民館で夜間練習を行うようにしている。毎回40分程度，諸鈍シバヤ保存会の支援のもと小学生・中学生までの男子の児童生徒が指導を受けている。保存会との連絡調整は，学校の

教頭が務めている。夜間練習にもかかわらず、男性教職員のほとんどが参加し、子どもを見守りながら伝承していく体制が整っている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携しながら諸鈍シバヤを継承していくために、諸鈍シバヤ保存会が重要な役割を果たしている。この保存会との連絡調整は、学校の教頭が務め、練習方針や計画立案等、円滑に行われている。旧暦の9月9日に実施される大屯祭で踊る「諸鈍シバヤ」は、国の重要無形民俗文化財に指定されているが、後継者育成が大きな課題となっている。

そのため、15年ほど前に参加年齢を小学校1年にまで下げた。低年齢の子どもに指導をすることが難しいが、保存会の方々と教職員による指導で踊れるようになっている。

最近では、保育所でも「ちびっ子シバヤ」を演じるためにシバヤの練習が始まっている。年長者が年少者に踊りを教える体制が整いつつあり、学校でも休み時間に踊りの指導をする中学生の姿が見られる。

## 7 取組の様子



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

中学生や保存会の方々に踊りを教えてもらって楽しかった。大人になってもずっと踊りたい。(小学生から)

9年間参加することができて、諸鈍の歴史についてよく知ることができた。800年も続く伝統を少しの間だが継承することができてよかった。国の重要無形民俗文化財を演じてみて良い思い出ができた。諸鈍に住んでいるので、高校になっても大人になっても続けていきたい。「りゅうて」がどんどん減っているのだから、これからどうなるか心配。(中学生から)

貴重な国の重要無形民俗文化財「諸鈍シバヤ」を踊ることができて感動した。歴史と伝統のある伝統行事に関われたことで、一生の思い出になる。素晴らしい経験ができたが、練習の回数をもっと増やすと、より一層シバヤに対する地域の気持ちが高まるのではないかと。(教職員から)

伝統芸能の継承という意味で諸鈍シバヤを続けていくために、子どものうちから踊りを覚えていくことが一番大事。いったん卒業して諸鈍に戻ってきたとき、郷土愛に気付く。今後も学校との連携を図っていきたい。(保存会から)